慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「ヴント」氏生理的心理学所載の変体精神現象（其三）：第三章 催眠状態
Sub Title	
Author	稲垣, 末松
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.6 (1910. 12) ,p.706(102)- 717(113)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101200-0102

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の日は今や將に來らんとしつゝあるのである。

（完結）

「ヴント」氏生理的心理學所載の變體精神現象（其三）

稻垣末松

第三章　催眠狀態

第一、催眠をなさしむる外部の條件

催眠とはどういふ狀態の謂であるかといふに、之は睡眠狀態に似寄つたものであつて、其の異なる所は、睡眠狀態に於ては凡ての官能が中止するに催眠狀態中に於てはたゞ一部分の官能のみが中止するといふにあるのである。從つてかの睡遊卽ち夢中に諸種の運動をなす樣な狀態は、是は催眠狀態に似寄つて居るのである、其の譯は睡遊中に於ては啻に身體の運動が試みらるゝ計りでなく、更に外界の印象に對する覺官の興奮性は增進して居つて、之が爲に、其際に現はれる觀念は通常の睡眠中に於けるよりも、より多く覺官知覺に類似するからである。

此の睡遊といふ狀態は或る一部僅少な人に限つて起る夢の一種の形式であるが、之と同樣に、催眠狀態も人によつて種々に變ずるのである。催眠狀態を來さしむるにはどうしたらよいかと云ふに、平等一樣か又は平等一樣に繰返される覺官的刺激を與へればよいのである。例へば手を以て被驗者の顏をそろ〳〵なでるとか、又は光輝ある物體を長く見詰めしむるとか、若くは時計のかち〳〵のやうな平等一樣の音を聞かせるとかするが如きである。但し度々催眠をさせられたものに於ては、別に此等の刺激がなくも眠らする事が出來る。此の際强い影響を及ぼすものは心理的動力である。そこで、幾度か催眠をさせられて興奮性の强くなつて居る者に於ては、施術者の「眠れ」といふ一言の命令で以て催眠せしむる事が出來る。或は又被術者にして余は之から一種奇妙な現象を呈する事が出來るとの觀念を抱くならば、それも有力な影響

を及ぼすし、殊に此の人に施術されたなら余は必ず催眠するとの信念を有せしならば、其は甚だ强い影響を及ぼすのである。否單に、之から少し時間が立つか又は何か外界の印象を與へられると余は眠るかも知れぬとの單一なる念慮でも催眠をする事が出來る。さうして此の如くして催眠を來さしめたり、又はその催眠中の經過や狀態を左右したりする所の心理的影響を稱して通常暗示（ズッゲスチオン）といふのである。

第二、催眠狀態の種類竝に段階

催眠狀態は、其を來さしめた刺激の程度や被驗者の感受性の强弱などによつて樣子を異にするのである。そこで、今此等の標準からして催眠狀態を區別して見ると、それは三個となる。第一は輕催眠狀態であつて、第二は深催眠狀態、第三は睡遊である。此等は各々段階的になつて居て、第一は第二の豫備となり、第二は又第三の豫備となるのである。さうして又此第一狀態は時に昏睡狀態と稱せられ、第二は全身强直狀態とも稱せられるのである。

此の第一狀態は通常の輕い睡眠卽ち半睡眠狀態と差して變らぬので、ある。卽ち眼は閉ぢられ、呼吸や心臟の鼓動は微弱になり、身體は睡眠前と同じ位置を取り居るのである。

されど第二狀態になると、樣子は全く異るのである。之に於ては往々全身强直といふ現象が見られ、四肢は他人により運動されてもそれに對して何等の抵抗をせず、甚だ無理な位置にせられると雖も尙それを取得し、さうして此の催眠狀態が續く間、若くは與へられた命令が解除されない間は、此の通りの位置になつて居る。第一狀態から此の第二狀態に移るに就ては、都合のよい時には被驗者の目の皮を上に向けて光線に向はしめさへすれば直に出來る。さうして又奇妙な事には、此の際之を半分上に向はしむると身體の半部のみが强直狀態になり、殘りの半部は昏睡狀態に殘り居るのである。尙又始め催眠をさせる爲に體を撫でるに當つても、若しも其の半部を撫でればその半部の

みに催眠狀態を來さしむる事が出來る。

第三の睡遊といふ狀態は、連續して刺激を與へるとか、被驗者が度々催眠をさられて其興奮性が強くあるとかすると、第二狀態からすぐに移り來るのである。場合によつては少時間の昏睡狀態の後直に來る。睡遊の狀態はたゞ之にかゝり易い人のみに於て來る。その中でも顯著な睡遊現象は、「ヒステリー」の者か、又は頻繁の催眠をなしたが爲に興奮性の強くなつて居るものゝみに於て見られる。睡遊狀態に特異なる徵候は之に於ては覺官が再び活動し運動機關が隨意運動をなすといふ事である。併し此等の作用とても一方に限局されて居つて、通常の覺醒狀態の時に於て起る者と本質的に異つて居るのである。此の如く一方に限局されるのはどういふ譯であるかといふに、かの高等中樞に於てなす所の統覺作用が或一定の覺官的刺激に對してのみ行はれ、さうして他の覺官的刺激に對しては全然行はれないからである。此の際興奮を促す刺激は主として施術者が與へるものゝみ

である。從つて施術者以外の人から發せられる聲や呼び掛けに對しては全然無感覺で、又針で突かれやうが其の他樣々の痛みが加へられやうが平氣で知らぬ顏をして居るのに、自己の施術者一人の呼び掛けや命令には忽ち應じ、それから與へられた暗示に對しては直に想像的觀念を構成し、かくて此の觀念をして知覺心象即ち實物に接すると同樣な勢力を得せしむるのである。之からしてかの「ハイデンハイン」のいふ所の命令的自動並に暗示的幻覺といふものが起るのである。今や被術者は手本として示される所の運動を模倣したり、又は施術者から與へられる命令を唯々諾々實行するのである。そして又觀念が暗示された結果として錯覺や幻覺を起す事は、それの擧動や面貌の上に顯れるのである。此等の暗示された觀念は、通常覺醒後には忘却されるが、時によつてはその一つを想ひ起してそれから他のものを記憶中から呼び起す事も出來る。睡遊中に於ては客觀的の印象は殆んど任意に何物とも認めしむる事が出來る。例へ

ば被術者に玉葱をば林檎だというて與へれば彼れは其のつもりで以て食ひ、或は「インキ」をば酒だというて與へれば酒と思つて飲み、さうして少しもいやな味がする樣な顏をしないのである。或は又白紙の上に赤十字があるといへば其の樣に思ふのである。最後に又施術者は問を發したり命令を與へたりする事により、任意に觀念をば過去の現象に向けてそれを想ひ出さしむる事が出來るのである。此の際意識が喚起された表象系列の上に狹縮され居る結果として、記憶力は異常に強くせられ、さうして之と共に覺官は喚起された表象や行爲に對し無抵抗に向注せられ、發せられた問に對する答を避けようとする能力は全然失はれて居るやうである。又思想を故意に祕密にしようとする事や、又は故意に虛言を發しようとする事などは、少くとも多くの場合に於ては出來ないのである。

睡遊も其の甚だしいものになると、催眠から覺醒した後までも殘りの影響を及ぼす事がある。例へば睡遊者は催眠間に與へられた命令を覺醒して後始めて實行したり、又は嚮に暗示されて居る表象を何時にか後現し、さうして其に基いて行爲を爲すのである。此のやうな云はゞ後催眠的影響の中には、彼の數時間否時とすると數日、數週間の後に於て、前に與へられた命令に基いて新奇に催眠をなし、一定の行爲を實行したりする事抔も屬し居るのである。之が實例となるものは數日數週間の後に或人を訪問するが如きである。此の時には、彼れは彼れに暗示された想像的錯覺に欺瞞せられ、かくて例へば頭上に角を有する靑色の服裝をなせる人を見るやうな心持をするのである。更に暗示された觀念は覺官に對しても勢力を及ぼす事である。それはどういふ事であるかといふに、この觀念が當該睡遊者に對して實物と違つた效能を生せしむるといふ事である。例へば或る一枚の郵便印紙をば其が發泡膏であるといつて暗示するならば、その郵便印紙を張らせる事により發泡膏の效果を生せしむる事が出來るの類である。此の如くであるから、世にいふ所の自然的睡遊に於て幾

多の奇異な現象が起つたといはれるのも、歸する所此のやうな主觀的效果の致さしむる所なのである。

第三、催眠の心物的基礎並に其の理論

催眠現象の來る內部的原因は、かの睡眠狀態の原因と同樣に未だ判然分らぬ。かの魔術師抔が如何にも奇怪な樣に此の現象を衆人に示し、種々に之を濫用した事抔は、此の現象の科學的研究を害し今も尙害しつゝあるのである。併し催眠狀態中に起る意識の變化が睡眠中に起る變化とよく似寄つて居るから、兩者は同樣の因果の法則に支配されるらしいと云ふ事が出來るのである。そこで催眠狀態を支配する所の因果の法則は何であるかといふに、其大部分は中止作用（ヘンムング）らしいのである。此の中止作用は、物理的方面に於ては、高等の中樞器官卽ち大腦の皮質の前頭廻轉の作用の中止となつて現はれ、心理的方面に於ては意志の作用の中止となつて顯はれるのである。知覺神經を刺激する事によつて生ぜられた中止の現象の尤簡單な場合は、かの反射運動の中止される場合である。されど催眠中に於ては中樞の反射器官の作用は中止しない。之に反して高等の中樞器官に於て起る正常な中止作用の影響が無くなるから、其反射的興奮性は反つて高められるのである。之と同樣に眼の反射運動作用が存して居る事や、又複雜な有目的の運動がなされる事抔は、四疊體や視神經床などの官能が中止されないのを示すのである。從つて催眠中に、よし諸官能が中止されるに就ても其はたゞ大腦の皮質の官能のみであるらしいのである。とはいふものゝ、此際に於ける諸種の現象を見ると此皮質の或る、官能は依然として繼續せられ、さうして遊睡中に於てはそは高昇されてあるらしい。從つて意識は中止されてもあらねば、又表象作用も行はれ、さうして一部分は暗示の勢力を受けて他のものに同化誤認せられ、又一部分はそれに相當する運動に變ぜられる。その摸倣運動や又與へられた命令に對して反應する所抔は、どうしても器械的の反射運動と認める事は出

來ぬ。此の反對に、こは觀念から發生する所の純然たる行爲である。但し意志で以て諸種の作用を中止したり又は規正したりする事などは、此際には出來ぬ。此の如くであるから、覺官の中樞や運動の中樞の作用は比較的に中止されて居らぬ。さうして高等中樞の統覺作用其のものも止んで居らぬ。たゞ此の統覺作用は受動的に行はれ、覺官的中樞に於て起つた觀念に對しては無抵抗に服從し、而して構成された覺官的表象に相當するやうな運動をなすのである。かくあるの結果として、此實行された運動は通常衝動的運動の性質を帶び、さうしてかの摸倣衝動は之を生ぜしむるに就て大なる影響を及ぼすのである。尙又高等中樞の官能が中止されるに就ても種々の程度がある。卽ち睡遊をなし居る時には、單純な摸倣運動や又命令的自動をなしつゝある時よりも、此の中止は少いやうに見えるし、更に此の摸倣運動や命令的自動をなし居る時には、それが深催眠狀態に於ける時よりも少い。此の深催眠狀態に於ては、單に觀念を暗示さへすればそれで以て意識を繼續せしむる事が出來るのである。されど睡遊中に於ては、同化された印象に對する覺官的中樞の興奮性は高まつて居るから、暗示された觀念をして錯覺や幻覺の性質を帶ぶるに至らしむるのである。此の如く興奮性が高まつて居るのはどういふ譯であるかといふに、之は神經の動學的交互影響（ノイロヂナミツシエル、ウエヒゼルウヰルクング）といふものから來るのであつて、夢の夜の表象が幻覺的性質を帶びるのも此理で以て說明する事が出來る。さらに此の理は如何にあるかを述べて見るに、若しも中樞器官の大部分にして官能を中止して居るならば、其の官能を中止せずに居る所の他の部分の興奮性は高まるのである。此の理を假定すると、催眠が二個の特異なる性狀を有するのが判明するのであつて、而も又此の性狀により之が通常の睡眠や夢と異る理も判明するのである。其の第一とは、催眠狀態中に於ては興奮性は大に高まつて居るといふ事である。その譯は、催眠前には通常の睡眠の前に於ける

やうに、中樞器官に於ける活力の消耗が來つて居ないからである。第二には、催眠狀態が來る特殊の心物的條件の結果として高等中樞の作用は一定の方面に限局せられ、之により或る一定の覺官的印象、特に施術者から與へられるものに對しては感受性は高上して居り、其他のものに對しては減少して居るのである、此の如くであるからして、催眠者が規則正しくあつて丁度見ると覺醒狀態に似寄つて居る言動をなすの理も發見されるのである。

催眠狀態と睡眠狀態との間に、此の樣な心理的差異があると同樣に、又兩者間に生理的差異のあるのも發見されるのである。卽ち正常な睡眠間に於ては、仕事をなすに足るべき一般の活力が消耗した結果として下等中樞の器官の活力も亦消耗して居るらしい。そこで光線に對する目の反動卽ち反射運動性や、呼吸や心臟の鼓動や分泌作用抔も衰へて居つて、その寢入りばなに於ては特に然るのである。然るに催眠狀態中に於ては、通常此等の作用が特に暗示によつて妨害（例へば汝の目や心臟は最早よく働かぬやうになつたぞと宣告するの類である）されない限りは本質的に變化を來さない。之と同樣に、催眠狀態中に於ては睡眠狀態中に於けるやうに瞳孔は狹縮されぬ。之に反して交感神經纖維の興奮して居るが爲に之は擴大されるのである。さうして睡眠の終り頃になつて其の深さが減ずると、催眠中に起る現象に均しいやうなものが起るのである。

以上述べたやうな狀態をば、始めて催眠狀態卽ち「ヒプノチスメス」と稱したものは「ブライド」であつて、時は千八百四十年の事である。彼れは視覺的物體を見つめる事の效能を始めて發見したのである。顏などをそろ〳〵撫でたりする事は、「メスマー」や其弟子どもによつて行はれた動物磁氣的療法、際に行はれた事である。但し此の際迎も、勿論他の幾多の有意や無意の欺瞞を行うたのである。獨逸に於ては動物磁氣療法家の「ハンゼン」が頻りに模倣運動や命令的自動をなさしめた狀態を公示した結果として、終に「リインホルト」や「リユールマン」や「ハイデンハイン」や「ベルガー」等をして之を行ふに至らしめたのである。之よりして近時に及んでは催眠狀態といふものが神經病理學の一部となるに至つたのである。今や暗示と催眠といふものは有效な治療法と認められ「ヒステリー」並に其の他の病的衝動に屬する所の疾患に適用されるに至つた。併し心理學的觀察やその結果を說明する事抔は、よし幾多の有益な點を有して居つたとはいへ尙ほ第二位に置かれ、さうして又よし深く研究されたにした所が、そは個々片たる論文となるに過ぎなかつた。之に反して佛國に於ては、催眠や睡遊や又之に類する狀態抔は熱心に研究された。さうして之を研究したものは啻に精神病學者のみでなく、多くの心理學者も加はつて居た。此の如くあるの結果として、佛國に於ては催眠心理學と實驗心理學とは同一義の者と解せられるに至つた。されど吾人を以て見れば、不幸にも此研究が心理學に對して與へた結果は、それが爲に費された勞力に相當する程多くなかつたのである。幾多の興味ある事實は幾多の書籍となつて佛國に於て現はれたとはいへ、しかもそれ等の本質に於ては、孰れも同一事項を繰返したのに過ぎなかつた。尙又此等の現象を說明するに就ての一般の心理的著眼點も、概して舊來の能力說心理學並に推想的心理學の範圍外に出づる事は出來なかつた。たゞそれが靈感とかその他の迷想に陷らなかつたのを、もつけの幸とする計りである。

第五、佛國に於ける催眠研究の二派

佛國の催眠研究に於ては二派のある事を忘れてはならぬ。二派とは、一は巴里派といふものであつて、一は「ナンシー」派と稱するものである。巴里派とは主として「シヤルコー」氏により創められたものであつて、之に於ては外界の純然たる生理的影響、例へば顏をそろ〳〵撫でるといふ樣な事に重きを置く。されど又他方に於ては強い磁氣といふやうな不思議の影響を以て催眠をなさしむる重要な條件と認め、さうして此催眠狀態をば病

的のものと認めるのであつて、巴里の醫師などは之を病人、てとに「ヒステリー」のものに適用するのである。之に反して「ナンシー」派の主なる代表者は「ベルンハイム」氏であるが、之に於ては暗示といふものを以て催眠をなさしむる重要な動力と認め、而して此の他の外界的影響、例へば平等一樣な印象に接せしむる事は單に補助的の手段と認め、これ等は暗示を待つて始めて效果を生ずるものと認めるのである。彼等に取つては、催眠なるものはたゞ其の異常極端な場合に於てそ病的狀態であるが、其他の場合に於てはさうでないのである。卽ち彼等は一方に於ては之を正常な意識の現象と類似して居るものと認め、他方に於ては若しも屢々之を行ふならば如何なる人も之に罹らぬものはないと認めるのである。獨逸に於ては通常此の「ナンシー」派が勢力を有して居る。「ナンシー」派の良好な點は、之が催眠現象を觀察するに就て常に統一的の著眼點（暗示のやうな）を與へ、さうして此の現象をば常に生理的事實や心理的事實と關聯せしむる所にある。されど佛國の科學的催眠學者、例へば「シヤルコー」や「ベルンハイム」や「フホレル」や「ヴオグト」の諸氏は決して荒誕無稽に陷るやうな事はなかつたが、其信奉者等は「ナンシー」派にせよ巴里派にせよ「メスメリスト」や動物磁氣の唱說者の口にせし迷信的觀念を有する所の神通術から、全然脫却する事は出來なかつた。要するに催眠術の實際的醫學的效果は決して否認する事は出來ぬが、さり迚之は又現今の心理學に對して幾多の迷想を投入したのである。迷想とは、催眠的實驗の結果からして精神の本體の何ものなるかを說明しようとする事である。此の如き希望に對しては、催眠現象や夢の研究などは實は何等の效果をも與へなかつたのである。

動物磁氣說を奉ずる者は、催眠現象を以て一種の神祕的自然力の致す所となし、さうして此の神祕的自然力を有するものは唯だ中間媒介者と稱する一定の人に限られ、若くは主としてさうであると認める。通常彼等は假定していふのに、此媒介者

が他の人に於て一定の變化を起さしめ樣との單一の意志さへ起せば、催眠をせしむるに十分であると。併し吾人を以て見ると、此の如き假定は何等の效果もない。何となれば何人と雖も右の中間媒介者になる事が出來るし、さうして始めに運動を判明に範示し、命令を與へて置きさへすれば、模倣運動をなさしむる事が出來るからである。從來得られて居る統計の結果によると、催眠術に罹らないものは百人中七八人に過ぎないのであつて、之とて絕對的にかゝらぬと云ふ譯ではない。之は實は主として彼等が故意に反抗して催眠術にかゝるまいと決心をするからである。されど最高度の催眠をなすものは甚だ稀である。「ボーニス」氏の調べた所によると、百人中たゞ十八人、七が固有の睡遊をなすといふ事である。又其の他の人の調べた結果もほゞ之と一致するのである。

第六、催眠現象の科學的說明

催眠現象を科學的に說明するには通常二個の基準を以てせられる。一つは之に類似して居る睡眠と夢といふものであつて、一つは神經中樞の官能の中止といふ現象である。之はかの「ハイデンハイン」が既に行つた方法である。彼れは想像したのに、催眠中に於ては大腦の皮質の官能は中止するのに、下等中樞卽ち四疊體や視神經床などは其の作用を繼續すると。かくて彼れは夢や模倣運動や自動的命令行爲などが之が結果であるといつた。されど又此の自動的命令行爲は、種々の皮質の器官が種々の程度に於て中止の狀態に於てあるのを示し、其の中でも高等中樞の官能が部分的中止をなし、さうして單に受動的の統覺作用をなすに過ぎないのを示すのである。此の如き狀態であるから、吾人はどうしても此高等中樞の官能が一部分中止せられ、さうしてそれが單に受動的の統覺作用をなすといふ事を以て催眠現象の本源的原因と認めねばならぬ。又此の如き原因に加へて、神經の動學的交互作用や又間接に血管運動の交互作用抑が、或る印象に對して特に强く興奮せしむるに至らしむる所以である。且つ又暗示の重要である

といふ事は、既に十八世紀に於て「ルロア」、「バイリー」「ドボリー」及び「ラヴオアジエー」を委員とする催眠術研究會の認むる所であるのである。

第七、動物催眠

催眠に似寄つた樣な現象は、或る覺官的影響を及した結果として、動物に於ても發生せしめられるのである。其現象が、催眠其ものと異なる點は、之れが多くは强烈な印象の結果として起るといふ事である。例へば吾人にして、突然に或る動物を攫むとか、又は其頭をば異常な位置に置くとかするならば、彼等は長かれ短かれ凝視の狀態を保ち、時としては之から眞實の睡眠に入るのである。かの鳥などを縛つて置いてそれから急に其の縛りを解くか、又は之を地上に押さへ付けるかすると、數分間は無感覺に留まらしめ得るのである。之は第一に「アタナシウス、キルバー」が發見し、さうして近頃になつては「クッエルマック」の證明した所である。之と同樣に、鳥でも蛙でも家兎でも、之を轉倒するか又は之を異常な位置に置くならば、同樣の狀態をなすのである。幾多の昆蟲に觸れると凝固不動の狀態をなすのも亦此の理に屬するのである「クッエルマック」は、此等の狀態をば催眠狀態と稱し、さうして催眠とは通常睡眠に似寄つた狀態であるといふた。之に反して「ホイベル」は、動物に於ける現實の睡眠を假定し、さうして之は正常な覺官的刺激を突然に拒絶したり、又はそれを轉倒して背を向けしむると來るといふた。「プライアー」は無運動の狀態は恐怖によつて來る事を推斷し、かくて此の狀態をば强直狀態と名けた。その實をいふと、「ホイベル」が觀察したやうに、動物が數時間も眼を閉ぢて無運動の狀態に立留まるは、之はもはや現實の睡眠と異ならないのである。されど又他方からいふと、突然に恐ろしい感情が發動すると、幾多の點に於て催眠殊に全身强直狀態に似寄つた狀態を來さしむる事が出來るのである。此の如くであるからして、かの「キルハー」が發見し「クッエルマック」が證明したやうに、若しも吾人にして鳥を以て實驗をなし、さうして之を

して平等一樣の視覺的印象、例へば頭の前方に引いて置いた白墨の線を見詰めしむるとか、又は目の前に固定された物體を見詰めしむるとかするならば、此の催眠のやうな狀態を來さしむる事が出來るのである。（終）

英國憲法上に於ける國王の地位（其二）

小倉和市

一時國民は其配偶を失ひ寂寞悲哀遣る方なき女王に對して敬意を表したりしが時日の經過と共に更に呟囁の聲を聞くに至れり。之れ國民は服喪引籠の間に於ても寸時も國民の利害を忘れざるの事實を知らざりしが故にして女王は悲哀痛惜の間にも毫も變ることなく嚴然として其國務を爵はせられたるなり。加かる事實は當時の公衆之を知らず加も女王は自ら之を說明し給ふ可きに非ず。バジエオトツ氏は平穩なる言辭を以て女王に對する批難を駁擊せしか、其用語さへ今日に於ては王位に對して敬意を表するの語と云ふとを得ざるなり。曰く、世人は女王がウインゾル宮殿に逍遙し給へること、又はウエールス親王がダービーに赴かせられたること等を讀んで、女王が餘りに細事を顧慮し給ふに過ぐと批評するも之れ誤なり。女王及び皇太子の一擧一動が非常に緊要なる意義を有するの事實を指摘するは頗る愉快なることなり。

バジエオット氏は誠實なる女王の賞讃者にして、又衷心より該制度を嘔歌するものなり。唯現代より之を見れば、彼が該制度を辯護するの方法に至りては世人の批難を免かれざるもの、如しと雖も彼が王位の權能に付きてなしたる解釋は現代の英國憲法上より見て精密なるものなることは何人と雖も疑はざる所なり。氏は法理上より見たる王位の必要を論じて曰く『王位は憲法中最も緊要貴重なる部分の中樞なり、其價値は賢明なる元首として國民をして尊敬の念を起さしむると、宗教に於ける禮拜の目的物の如くなるにあり、加も斯く惹